東京遠眼鏡

お台場 — Odaiba —

東京は東京湾に面した都市ですが、新宿や渋谷、あるいはかなり海に近い銀座でさえ、海を感じることはほとんどないでしょう。同じように、海に面した都市である香港の生活が、海との関わりなしには考えられないことと比べると、大きな差があります。しかし、銀座のすぐ隣といえる汐留から見下ろすと、東京が海に面した海洋都市であることを感じさせてくれます。

まず、見下ろすと日本一の魚市場、築地市場が目に入ります。東京の食生活を支えている築地市場は、上から見ると数本の管がカーブしているように見えます。これは、かつて物流を鉄道に頼っていた頃のなごりで、鉄道の引き込み線が通っていたのです。築地には、旧国鉄の東京市場駅がありましたが、物流がトラック中心になったために廃止されました。市場というのは、物流の中心地点でもあるので、交通手段なしには考えられません。今も首都高が近くを通っていますし、すぐ東側は隅田川に面しています。

築地市場を隅田川の対岸である月島側から見ると、船着き場が続いているのが見えます。この裏側からの景色のなかに、築地市場の活力が見えるような気がします。

汐留から築地 お台場を見る

築地市場には、通常の水道とともに、海水の出る水道があるといいますが、海水も簡単に引ける、隅田川の河口に位置する築地市場の立地は、まさに最適な場所にあるといって良いように思えます。その築地市場も、トラックの駐車スペースが不足しているにも関わらずスペースを広げることができず、また老朽化も進んでいるため、移転計画が進んでいます。

汐留 — Shiodome —

築地市場の跡地は、招致活動を行っている東京オリンピックのメディアセンターとする構想があります。築地市場の前には朝日新聞社の社屋もあり、食の中心から情報の中心へ移り変わることになるのかもしれません。しかし、「築地○○寿司」といった店名が数多く見られるように、日本最大の魚市場である「築地」は一つのブランドでもあります。その築地が移転してしまうことに対しては、多少のさみしさを感じてしまいます。

築地から視線を右上に移動させると、お台場が見えてきますが、汐留から見るとかなりの距離があるように見えます。東京は、世界的に見ても都市として機能している面積がかなり広い都市といえます。東京にはもともと川があり、東京湾に面した都市でしたが、お台場などができることで、海をも内側に抱え込むような形になってきています。元々お台場は、江戸幕府が江戸を守るための砲台を置いた場所であり、地名の語源にもなっていますが、現在では東京観光の観光名所の一つにもなっています。東京の中心地はビルばかりですが、このように内部に海を抱え込むことによって、自然を感じられる都市になるとすれば、それは東京にとってもよいことなのかもしれません。